

倫友交友録

一語一会

「物はこれを生かす人に集まる

(万物生々)」



石川県倫理法人会

設立25周年記念式典

日時／平成27年7月10日[金]
会場／金沢東急ホテル5F



THE 25th ANNIVERSARY
Ishikawa Prefecture RINRI HOUJINKAI

石川県倫理法人会は、今年25周年（設立25周年記念式典 7月10日開催）を迎えます。今回は、記念企画として県幹事長経験者の西野裕一監査、山野之義顧問、連友也幹事長にお集まりいただき、舞台裏から見た石川県倫理法人会について語っていただきます。話題の中心は、会員数が300社から850社へと一気に増加した2001年～2008年の当会の「脈動期」とも言える時代です。対談には、幹事長と一体となって会の運営をサポートして下さっている、事務局の吉村和美さんにも加わっていただきました。

幹事長の仕事、^{いまむかし}今昔

連 ● 幹事長と言えば「西野さん」というイメージが、ぼくにはありますね。

西野 ● 幹事長を長く勤めていましたから。最初は、オートブラザカーブの古田さんで、その後を引き継いで第3代の梶谷会長の時代まで。10年ほどかな。万年幹事長というイメージがあるでしょ。ところが、事務局の記録によると間に1年、中崎さんが幹事長だった年があるんですよ。記憶にないんですけど。中崎さんも覚えていないんじゃないかな（笑）。

連 ● おいくつだったんですか。

西野 ● 平成7年ぐらいだったから、40歳ぐらいじゃないかな。ぼくだって40歳だった時があるんだよ（笑）。

連 ● それだけ長くやっている（幹事長という役目にも）慣れてくるものですかね？

西野 ● 今のように大きな組織になると、幹事長もいろいろ大変だと思うよ。しかし、ぼくらの頃は、仲良しクラブで、やることをやっただけだもん。山野さんの時も楽だったと思うよ。何しろ勢いで進んでいるだけでコントロールする必要もなかった。事務局の吉村さん

も力になってくれたし、困ったことは吉村さんに押しつけておけばいいんだしね（笑）。

山野 ● おっしゃる通りです。ぼくが幹事長だったのは西野会長時代で、会員数が500社ぐらいでしたか。トラブルらしいトラブルは何もなかった。会長に気を使う必要もなかったですし。

西野さんがおっしゃったんです。「山野、お前の好きにやれよ。何かあったら最後はオレが責任を持つ」と。それでたとえ結果的に間違っていたとしても西野さんの判断を信じようって思ったんです。

吉村 ● 西野さんが会長を勤めた3年間は、区切りの達成行事など、あらゆる催しを、幹事長だった山野さんがハンドリングしてましたよね。司会原稿も山野さんが書かれてました。

山野 ● あの司会原稿は、定型化されているところで利用されているようです。先日、家内が中学校のPTAの会合で、どこかで見たことのある原稿だなぁって思っていたら、ぼくの前稿が使われていたなんて笑い話もあります。

吉村 ● あのころは、私が4つか5つの単体法人会の事務局を兼務していた頃で、手が足りなくて、市議会議員

だった山野さんに、会員さん向けの郵送物のラベル貼りまで手伝っていただき、その心配りがホントにありがたかったです。

連 ● ちょうど 10 年ほど前ですかね。

西野 ● 380 社から 500 社に達成したところじゃないの。全国的に見ても倫理法人会の会員数が伸びてきた時で、それを上まわるさらにすごい勢いで石川県倫理法人会が伸びていてね。よく全国から視察に来ていた。

七尾市倫理法人会設立秘話

連 ● 年表を見ていると西野会長、山野幹事長の時、カンブリア紀のようにモーニングセミナーの全国 1 位がずらっと出てくるんです。

西野 ● 1 位を取ろうという空気が出てきたんです。それまでは、ランキングも無かったんじゃないかな。今になって振り返ると、七尾市準倫理法人会の開設が転機だったね。



七尾市に入会してくれたお礼に、着物を作ったこともあったね。珍しい夏物の紋付きで、着る機会もないと思っていたが、七尾市倫理法人会設立の式典が 7 月になって、それを着て参加したよ。不思議な縁だね。

石川県倫理法人会監査
アーク引越センター北陸株式会社 代表取締役

にし の ゆういち 西野 裕一 氏

連 ● 七尾市は平成 16 年 7 月 1 日に準倫理法人会として開設。平成 18 年 7 月 23 日西野会長の時に正法人会になったんですよ。設立式典は県の 500 社達成と一緒に行われましたよね。

西野 ● 開設の時は梶谷会長で、正法人会になったのはぼくが会長の時だったんだ。

梶谷会長のころから、全国の会長・幹事長会議にも出席するようになってね。まあ、簡単に言うと拡充を煽る本部の仕組みなんだよね。行くと「拡大がんばろう～！エイエイオ～！」とやらされる。ぼくはそういうのが苦手だね。

1 年目は、ぼくも梶谷さんも聴かないふりをしていたんだ。ところが梶谷さんの 3 年目に、ぼくらも何かしなきゃいかんか



ねってことになって、七尾市に準倫理法人会を立ち上げることになった。

山野 ● どんたくの山口成俊さんが七尾市の初代会長でしたよね。

西野 ● そう、梶谷さんは七尾市に立ち上げて 3 年の任期満了で県会長を辞める予定だったんだけど、山口さんに「作るだけ作って辞めるんじゃないだろうね」って釘を刺されてね、結局 4 年間県会長を勤めることになった。山口成俊さんというのはやっぱりキーパーソンだよ。梶谷さんという存在と、山口成俊と繋がったこと、そして加賀屋の小田禎彦さんね。あの 2 人が一生懸命、七尾市でやってくれたということが、石川県倫理法人会のもすごいパワーになったと思うよ。七尾市の成功がなかったら今の石川県倫理法人会はないと思うよ。

連 ● 七尾市の立ち上げはどうしたんですか？

西野 ● ぼくはね、仕事を作ろうと思ったんですよ。ぼくという人間を分かってもらって、話を聞いてもらうには仕事をお願いするのが一番だと思ったんですよ。仕事をした人との結びつきって強いじゃないですか。十七箇条にもあるでしょ「物はこれを生かす人に集まる」人間も一緒ですよ。幸い能登にはぼくの別荘があったんで、庭の手入れや、改築、当時は夏にお客様をたくさん招いて花火大会を開いていたので、それに付随するものは全て七尾市で調達しました。仕事をしてくださった方は、みんな倫理法人会に入ってくださいましたよ。

連 ● 結構、お金を使いましたね。幹事長は大変だ(笑)。

西野 ● それがぼくの七尾市における基本的な拡充の考え方。

吉村 ● それだけじゃないですよ。梶谷さんと一緒によく七尾市に通っていたじゃないですか。

山野 ● 足しげく通いましたよね。それが七尾市の発展や奥能登の設立につながったんですよ。

西野 ● これで終わればいい話なんですけど、この続きがあるんです(笑)。でっかい力をするわけ。

その頃は吉村さんもいなかったし、お金の管理が上手くできていなかったんです。100 社、200 社でやっているころは、お金が余るなんてことはなかったよ。300 社になったら本部から事務局経費として 30 万円いただけ。そういうおいしい話があるんだと色めき立ったわけ。それで、七尾市を立ち上げれば会員が 400 社になって…なんて捕らぬ狸の皮算用をしはじめた。後で補助金が入るからと、拡充経費をどんどん使ってたんですよ。最後にはトントンぐらいになればいいやという楽天的な考え方だね。事務局を任せていた人も、不慣れで「大丈夫か？」と尋ねると「全然大丈夫だ」という答えが返ってくる。ところが、フタを開けたら計算が合わない。そんなどんびり勘定で運営してました。今では考えられないことです。

事務局設立と運営システムの確立

西野 ● まあ、当時は経理がずさん杜撰だね。七尾市の設立があって、会員数も増えてきたからね、事務局を何とかしないといけないということになったんです。

連 ● 事務局は昔はどうしていたんですか。

西野 ● 石川県倫理法人会ができた頃は、外部に委託していたんですよ。マネジメント料として 1 社 2,000 円で契約していたんですが、ぼくが幹事長の時それを計算していたら、いただいた会費から本部の講師費用や、モーニングセミナーの会場費などを差し引くと、ほとんど残らない。これでは会が発展していかないので、事務局を自分たちで持とうということになったんです。

山野 ● ところが、専任で事務局員を抱えるほど余裕がない。兼業という中途半端な形で雇っている人たちだから当然専門家じゃないわけ。それで例の事件でしょう。ニッチもサッチもいなくなった時に、西野さんが吉村さんに白羽の矢を立てたんです。

西野 ● 吉村さんは最初に事務局を委託していた会社で働いていたんだよね。だから、会のことよく知っているという安心感もあったし。個人的に吉村さんのご両親とも

知り合いだったということもあって適任だと思ったんだ。

吉村 ● 私覚えてますよ。12月17日、西野さんに呼ばれてアーク引越センターに行くと、梶谷さん、西野さん、中野県会長、田村さん、みなさんいらっちゃって「事務局やってみないか」と言われ、翌年2月から西野社長のウイル環境デザイン株式会社の社員として倫理法人会の事務局業務をすることになりました。

西野 ● あの頃は本当に、会にお金がなかったから受け皿となる会社をぼくが用意したんですよ。

山野 ● 最初の頃は本当にお金がなかったので「倫理友の会」と言う口座を作って役員が会費とは別に月に1万円ずつ積み立てたよね。みんなで飲む時はここからお金を出そうやということで。いわば役員潤滑油だね。

連 ● 覚えていますよ。確か今井会長の頃だったんじゃないかな。そのお金でみんなでレ INAによく行きましたよ。



山野さんが幹事長の時、辞令交付後の懇親会で金沢市中央が全国1位になったと発表があって、会場から大歓声が起こったのを覚えています。ちょうど全国的に倫理運動が急速に拡大していった時期と重なったんでしょうね。

石川県倫理法人会幹事長
ムラジ建設株式会社 代表取締役

連 友也 氏

西野 ● あの七尾市の設立がなければ、この素晴らしい吉村和美はいなかった。不思議なものだ。

連 ● よく事務局には人が来てましたよね。

山野 ● 事務局というのは、会長、幹事長、単会の会長の相談にのってくれる心のよりどころみたいなところがあるからね。

吉村 ● 相談の中心は主に役員同士の人間関係でした。私が事務局をしていて、忙しいと感じるようになったのは500社を超えたあたりでした。平成18年頃だったと思います。単会が増え、いろいろなトラブルが発生してきて、私では判断できないことを山野幹事長に相談したりして。

山野 ● 今から思えばあれが全部ハレーションになった。いろいろなハレーションが起きていてそれに対応していく中で、だんだん大きくなっていったんだね。



今でも覚えている、西野さんから「幹事長やれ」と言われて「会長のおれもやる気がないから幹事長もやる気なくていいから」と(笑)。好きにすればいいという言葉通り、ほんとに好きにやらせてもらいました。

石川県倫理法人会顧問
金沢市長

山野 之義 氏

連 ● こうして、西野・山野体制の中で、今の石川県倫理法人会の運営システムができあがったんですね。

異業種交流ではない、心の交流会に

連 ● 石川県倫理法人会も25周年を迎えるわけですけど、山野さんにとっても感慨深いものがあるのではないですか。

山野 ● 平成6年に金沢に戻って、縁あって入会しました。そのころは市長どころか、議員にもなっていない、無職の時でした。以来、この会とは深いお付き合いをさせていただいています。

こういう仕事をしていても、倫理で学んだことが自然と無意識のうちに出てきます。例えば、席を立つ時は必ず椅子を入れる。パーティーなどで挨拶を聴く時は、座って聴く。名前を呼ばれたら「ハイ」と返事をする。

これは笑い話ですけど、森喜朗元総理大臣が、ある立食パーティーでご挨拶をされまして、「元内閣総理大臣森喜朗様」と呼ばれた時に、「ハイ」と返事をして、マイクの前に立ち、「山野市長のマネをしてみました」と言っ

たら会場から一斉に笑いが起こったという実話がありました。

今でも、時間が許す時はできるだけモーニングセミナーに参加しようと思っています。こう言うと年寄り臭く思われるかもしれませんが、最近の倫理法人会は単なる異業種交流会になりつつあるような気がします。まあ、これだけ大きな会になったら避けられないことなのかあって思いますかね。

西野 ● 昔はもっとアットホームだったね。夫婦仲良しが、企業繁栄の元だといって、年に1回「いい夫婦の会」っていうのがあったね。異業種交流会や、経営の勉強をする会はいろいろあると思う。でも「いい夫婦の会」のように、ほんわかとした学びの会は倫理法人会しかないと思うよ。もう一度「いい夫婦の会」を復活させたいね。

連 ● ぼくが積極的に活動したのは石川県が設立した時の数年と、ここ5、6年で、その間に長いお休み期間がありましてね。その休眠期間中にモーニングセミナーへ行った時、山野さんが幹事長だったと思うのですが、「3回に1回来てくれたらイイよ」っておっしゃったのを今でも覚えています。なんだかほんわかとしているでしょ。

今は、どの単会をみても役員朝礼からすばらしいんです。ぼくが金沢市の会長をしていたほんの数年前と比べても、雲泥の差なんです。マニュアルに沿ってシステムティックに会が運営されている。でも、何か違うと感じるのです。あまりに形にこだわり過ぎていて、人のことを思いやる気持ちがなくなってきたのかなあ。

山野 ● 年を取ったという事じゃないの。2、3年前にソフトバンクで働いていたころの仲間と会って話しましてね。まだソフトバンクに残って働いている人も大勢いるのですが、みんな口々に「あの頃のソフトバンクは良かった」と言うんです。「好き放題やれた」と。でも、客観的に見れば絶対今のソフトバンクの方が、社会的にも、給与の面でも遙かに良いに決まってい



市長室で昔を懐かしみ談笑する左から西野氏、連氏、右は事務局の吉村和美さん。

るんです。それと一緒に倫理法人会も今の方がシステマティックになっているし、学びの部分は多いんです。ただ、昔は楽しかった。連 ● いい加減だったんだけど、心の繋がりがみえない、ほんわかとしたところが良かったんですね。昔の良いところを取り入れて、今の良さとかわかった時にもっとすばらしい会になるのだけだね。

こうして昔を振り返ると、時間を忘れてすごく楽しく話せますよね。5年後、10年後、今を振り返ってほくは楽しそうに話せるかなって。現役の幹事長としては、思うところがありますね。今頑張っている人が10年後、ぼく達のように「あの頃は楽しかったね」と笑い合えるような会の運営をしていきたいですね。



取材を終え、市長の席で記念撮影

GoodDay+ NEWS グッドディプラス ニュース

5年ぶり、丸山敏秋理事長による役員研修開催!

平成27年4月18日
金沢国際ホテル

(一社)倫理研究所 丸山敏秋理事長を講師にお迎えし、役員研修が開催された。演題は「倫理法人会の役割と使命」。約5年ぶりとなる石川県での理事長講話に石川県内の各単位法人会から集まった役員は、時折ペンを走らせながら真剣に聴き入った。



丸山理事長は、経営学者であり未来学者とも呼ばれたピーター・ドラッカーの言葉を引用し「今は数百年に一度の世界文明の大転換期であり、この転換は2010年ないし、東京オリンピックが開催される2020年まで続くだろう。現にスマートホンでどこにいても世界中の情報にアクセスできる社会に生きる10代の若者には、ほんの50年前の日本さへ想像出来ないものになっている」と語った。

この50年の間に人類は宇宙に飛び出し、外から地球を眺める宇宙的視野を手に入れ、地球も一つの生命体であるとする、人類意識の大転換が起こり、地球資源の限界や、地球規模の環境問題など様々な問題が取り上げられるようになった。

資本主義中心の経済社会では、繁栄は



丸山敏秋理事長

経済成長を前提として考えられている。しかし、経済成長とエネルギー問題、そして環境保全という、現代が地球規模で抱える3つの課題は、どれか1つだけを選ぶことができないトリレンマ(三棘み)の状態にあり、それを解決していくには科学の進歩だけではなく、人間のあり方、価値観を変える必要がある。

「だからこそ、すべては対立ではなくバランスであると考え、全一統体を原理とする倫理の教え(これは日本人の知恵の集積でもある)が、世界的に今後益々求められるだろう」と丸山理事長は論じた。

最後に、当会の特色として右の5点を指摘し、2時間の講演を結んだ。



倫理法人会の特色

1. 純粹倫理という確固とした拠り所がある。
2. 倫理で繋がっているすばらしい仲間がいる。
3. 朝を大切にしている。
4. 家庭と事業を一体視している。
5. 継続の力を有している。

◆ 日本人らしい学びを受けているんだと改めて感じました。浄きみき心ですね。倫理に出会って良かったと素直に思いました。(土田 洋子さん・金沢市中央倫理法人会 幹事)

◆ 冒頭のスケール感がすばらしかったです。100年単位の長い歴史的な時間のとらえ方と、地球という単位での空間のとらえ方。地球倫理と言われていますが、トップの方がどういうふうを考えているのかを、実際にお聴きすることで倫理法人会に入って、学ぶ価値があると確信しました。(赤土 俊介さん・金沢市中央倫理法人会 幹事)

◆ 「信じなくてもいいんだよ、実践すればいいんだよ」。この端的な表現。聴くことの喜びを体験しました。(徳田 明美さん・小松市倫理法人会 幹事)